

木津川市立小・中学校の在り方に関する基本計画

(骨子) 案

I	木津川市の学校の現状と課題	
1	児童生徒数の推移	1
2	学校規模の現状	3
3	教育の現状と課題	4
4	学校施設の現状	6
II	将来世代の児童生徒にとって、ふさわしい規模・配置・学校体系と 施設の整備方針	
1	児童生徒数の推移に基づく適正規模・適正配置	8
2	義務教育9年間を通じ児童生徒一人ひとりの 能力・適性等を最大限伸ばせる学校の体系	10
3	学校施設の整備	13
4	地域社会との連携	13
5	学校選択制	13
6	校区変更	14
III	具体的な学校再編整備の方向性	
1	傾向による区分	15
2	中学校区毎の状況	16
IV	今後の取組の進め方	
V	留意点	
VI	計画の見直し	

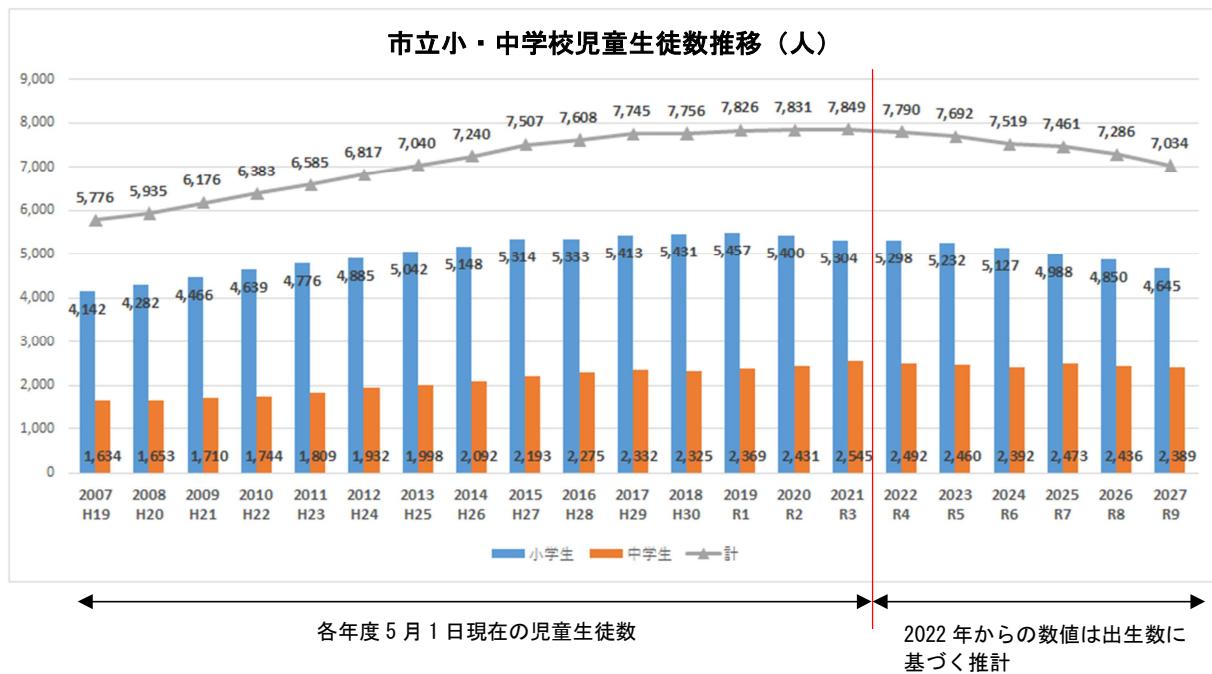
I 木津川市の学校の現状と課題

I 児童生徒数の推移

木津川市立小・中学校の児童生徒数は、本市が誕生した2007年(平成19年度)以降増加を続け、2021年度(令和3年度)は7,849人となっています。

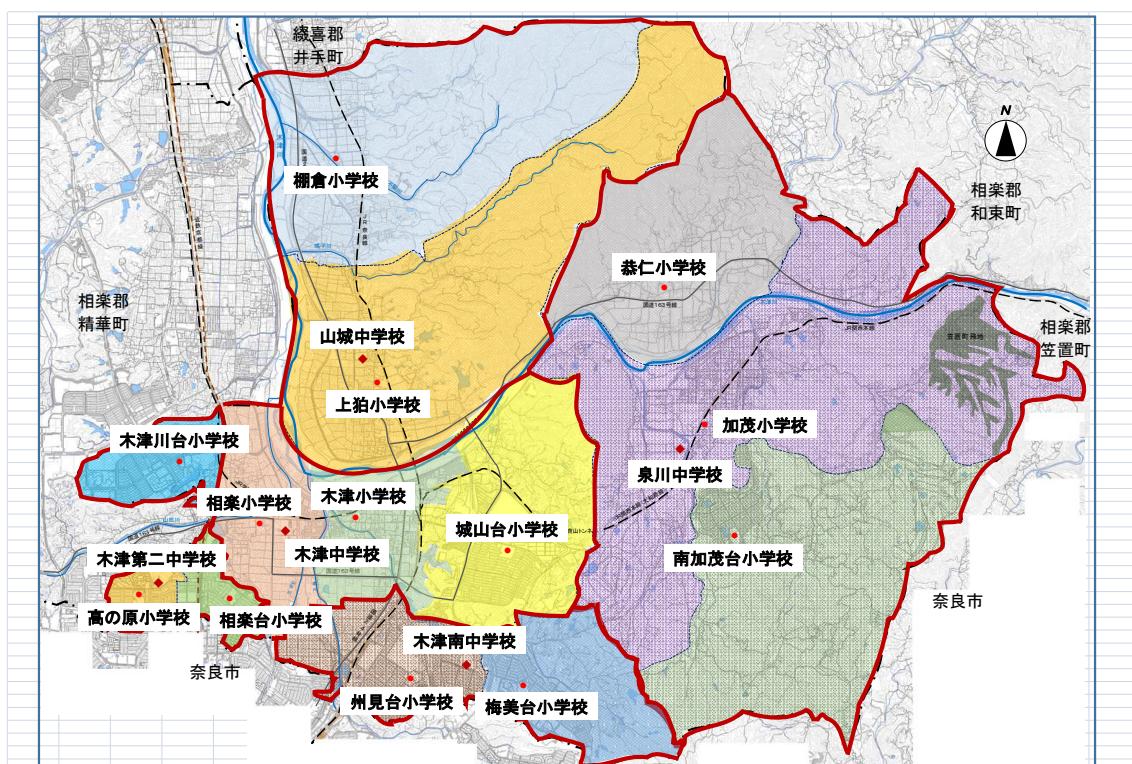
今後は、城山台地域で当面の増加傾向があるものの、市内全体の傾向としては減少が見込まれ、2027年度(令和9年度)には7,030人程度になると予想されています。

更に中長期的な推計をした場合、現在規模が大きい学校の地域においても、今後、著しい減少傾向が見込まれ、市全体的に見ても減少傾向となっています。



市立13小学校・5中学校の名称及び位置

小学校の名称	位置	中学校の名称	位置	校区となる小学校区
木津小学校	木津町内垣外 95	木津中学校	相楽高下4番地8	木津・相楽 城山台※
相楽小学校	相楽清水1			
高の原小学校	兜台4丁目4番地1	木津第二中学校	兜台6丁目1番地	高の原・相楽台 木津川台
相楽台小学校	相楽台5丁目17番地1			
木津川台小学校	木津川台2丁目4番地	木津南中学校	州見台四丁目26番地	梅美台 州見台
梅美台小学校	梅美台四丁目26番地			
州見台小学校	州見台一丁目32番地	泉川中学校	加茂町大野鳥田75	加茂・恭仁 南加茂台
城山台小学校	城山台六丁目1番地1			
加茂小学校	加茂町里西上田11-1	山城中学校	山城町椿井柳田33	上狛 棚倉
恭仁小学校	加茂町例幣中切31・32			
南加茂台小学校	南加茂台12丁目11	※2023年度以降、城山台9~13丁目は第1学年から順次、 木津南中学校区となります。		
上狛小学校	山城町上狛学校1			
棚倉小学校	山城町綺田局塚14			



市立小・中学校の児童生徒数推計（人）

小学校	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
木津	516	375	348	354	353
相楽	437	374	323	319	315
高の原	292	273	274	298	283
相楽台	231	256	242	236	233
木津川台	371	168	181	295	363
梅美台	968	671	439	349	443
州見台	666	474	359	379	465
城山台	973	1,838	1,419	748	467
加茂	272	217	198	242	257
恭仁	48	35	33	43	38
南加茂台	157	104	133	157	152
上狛	154	100	115	136	130
棚倉	286	219	147	168	199
計	5,371	5,104	4,211	3,724	3,698

中学校	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
木津 ※	583	786	882	654	485
木津第二	529	385	301	309	341
木津南 ※	815	961	930	579	445
泉川	283	227	155	189	195
山城	248	200	147	135	138
計	2,458	2,559	2,415	1,866	1,604

各小・中学校毎の対象学年人口推計と進学率等により算出しているため、進学状況により実際の児童生徒数とは異なります。

※2025年以降の数値は城山台9～13丁目を木津南中学校区としています。

2 学校規模の現状

		2021年度	2027年度
小学校	小規模校 11学級以下 (特別支援学級は除く)	相楽台 加茂・恭仁・南加茂台 上狛・棚倉	相楽・相楽台・木津川台 加茂・恭仁・南加茂台 上狛・棚倉
	標準規模校 12～18学級	木津・相楽・高の原 木津川台	木津・高の原
	大規模校 19学級以上	梅美台・州見台	梅美台・州見台
	過大規模校 31学級以上	城山台	城山台
中学校	小規模校 11学級以下 (特別支援学級は除く)	泉州・山城	木津第二・泉州・山城
	標準規模校 12～18学級	木津・木津第二	
	大規模校 19学級以上	木津南	木津・木津南

市立小中学校 児童生徒数・学級数の状況【出生数による推計】(児童数・生徒数：人)

小学校	2021 年度		2027 年度推計		増減	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
木津	16	464	12	336	▲4	▲128
相楽	14	413	11	299	▲3	▲114
高の原	12	300	12	242	0	▲58
相楽台	10	240	10	249	0	9
木津川台	12	330	7	170	▲5	▲160
梅美台	27	895	19	566	▲8	▲329
州見台	20	620	13	385	▲7	▲235
城山台	38	1,185	56	1,852	18	667
加茂	11	256	7	175	▲4	▲81
恭仁	6	48	5	35	▲1	▲13
南加茂台	6	139	6	85	0	▲54
上狛	6	139	6	95	0	▲44
棚倉	11	275	7	156	▲4	▲119
合計	189	5,304	171	4,645	▲18	▲659

中学校	2021 年度		2027 年度推計		増減	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
木津 ※	17	649	21	777	4	128
木津第二	14	508	10	337	▲4	▲171
木津南 ※	23	870	23	907	0	37
泉州	9	266	6	186	▲3	▲80
山城	9	252	6	182	▲3	▲70
合計	72	2,545	66	2,389	▲6	▲156

木津中学校区：木津小学校 相楽小学校 城山台小学校

木津第二中学校区：高の原小学校 相楽台小学校 木津川台小学校

木津南中学校区：梅美台小学校 州見台小学校

泉州中学校区：加茂小学校 恭仁小学校 南加茂台小学校

山城中学校区：上狛小学校 棚倉小学校

2027 年度の学級数は、児童生徒数を小学校は 35 人、中学校は 40 人で除して切り上げ学級数とした。

※2027 年の数値は城山台 9~13 丁目を木津南中学校区としています。

3 教育の現状と課題

(木津川市の目指す教育)

- 児童生徒一人ひとりが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようとする。
- 木津川市教育振興基本計画

<基本理念>

- ・生きる力をはぐくみ 新しい時代を拓く“きづがわっ子”を目指して

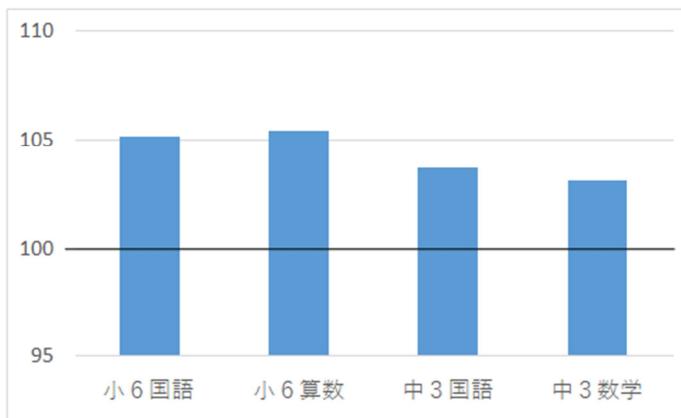
<目指す子ども像>

- ・共に「学び」「喜び」「成長し」未来を力強く生きる子ども

(現状)

- 学校教育における、個別最適な学びと、協働的な学びの充実
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現
- 「学習機会と学力の保障」「全人的な発達・成長の保障」「身体的・精神的な健康の保障」
- ICT 活用の推進の視点
- 全国学力・学習状況調査や京都府学力診断テスト、本市独自の小学校統一学力テスト等の実施・検証
- 全国学力・学習状況調査における本市の小・中学生の正答率（国語、算数・数学）は、常に全国の平均正答率を上回る。

令和3年度全国学力・学習状況調査結果（平均正答率）



全国平均を100とし、標準化した数値を表しています。

(課題)

- いじめや不登校、虐待等多くの課題も存在
- 小学校時に不登校だった生徒が中学校に入学後も改善されない状況
- 中学校入学後、様々な要因で不登校を起こす子どもが増加
- 学習意欲に課題のある児童生徒への対応
- 特別な支援を要する児童生徒の増加
- 集団づくり、学校づくりに向けた一層の取組の強化や小学校・中学校の連携が必要

4 学校施設の現状

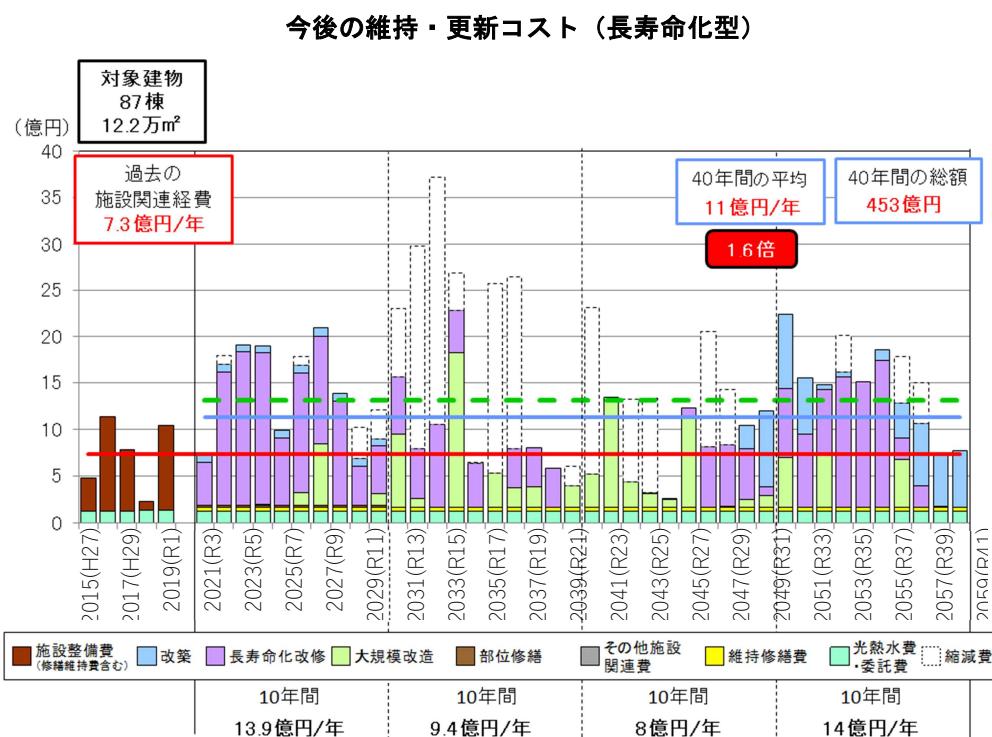
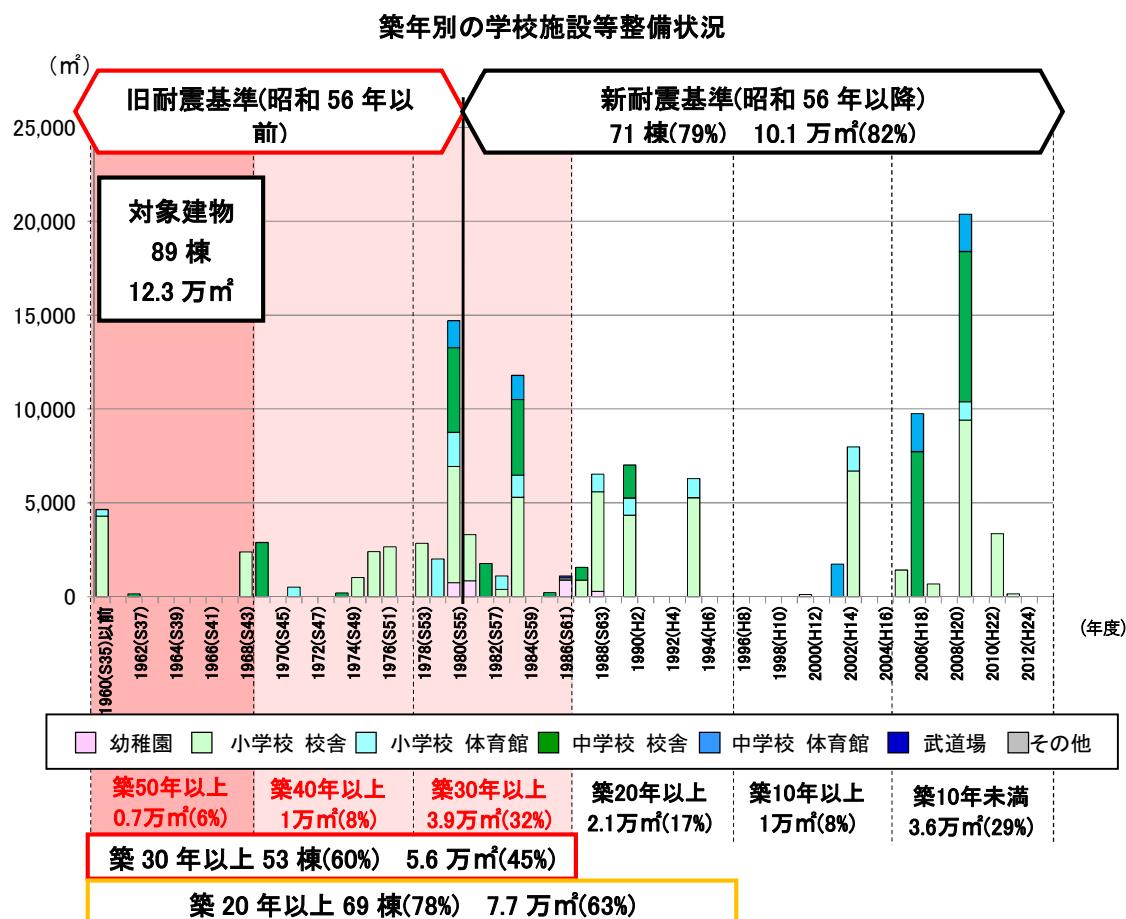
- 1980～1989年の10年間に建設された学校施設の延床面積は全体の約1/3
 - 建築して30年以上が経過する学校施設の割合は45%、築20年以上が経過する施設は約63%
 - 2017年「木津川市公共施設等総合管理計画」を策定
 - 2020年「木津川市学校施設等長寿命化計画」を策定
- 従来の「改築中心・事後保全」の考え方から「長寿命化中心・予防保全」の考え方を取り入れた整備手法へと転換を図り、長期的な視点による施設整備のあり方を示す

学校施設一覧

名称		延床面積 (m ²)	建築年度<築年数>
小学校	木津	6,180	1956年(S31年) <66年>
	相楽	5,027	1958年(S33年) <64年>
	高の原	6,626	1986年(S61年) <36年>
	木津川台	6,750	1991年(H3年) <31年>
	相楽台	5,253	1993年(H5年) <29年>
	梅美台	8,963	1997年(H9年) <25年>
	州見台	8,694	2007年(H19年) <15年>
	城山台	12,141	2014年(H26年) <8年>
	加茂	4,956	1969年(S44年) <53年>
	恭仁	2,124	1936年(S11年) <86年>
	南加茂台	8,124	1982年(S57年) <40年>
	上狛	3,524	1978年(S53年) <44年>
	棚倉	4,635	2016年(H28年) <6年>
小 計		82,997	
中学校	木津	9,996	2014年(H26年) <8年>
	木津第二	7,064	1986年(S61年) <36年>
	木津南	9,748	2011年(H23年) <11年>
	泉川	8,151	1982年(S57年) <40年>
	山城	5,524	1970年(S45年) <52年>
	小 計	40,483	
合 計		123,480	

- ・建築年度は、各学校施設等で主要な建物の建築年を記載。
- ・木津小学校は2022年度校舎改築工事。
- ・相楽小学校は2022・2023年度校舎改修工事。
- ・恭仁小学校は史跡地内にあり、景観に配慮した耐震補強を2016年(H28)に実施。

(参考：木津川市学校施設等長寿命化計画)



(出典：木津川市学校施設等長寿命化計画)

II 将来世代の児童生徒にとって、ふさわしい規模・配置・学校体系と施設の整備方針

I 児童生徒数の推移に基づく適正規模・適正配置

(1) 適正規模

- 教育環境を確保するためには、児童生徒が一定規模の集団生活の中で活気に満ちた学校生活を送ることのできる学校規模が望ましい
- 学校の学級数は、学校教育法施行規則第41条において「小学校の学級数は12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。」と規定され、同規則第79条において、この規定は中学校にも準用

学習面

小規模校		大規模校	
メリット	デメリット	メリット	デメリット
○ 児童生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○ 集団の中で、多様な考え方方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ○ 1学年1学級の場合、ともに努力してより良い集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。	○ 集団の中で、多様な考え方方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。	○ 全教職員による児童生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
○ 学校行事や部活動等において、児童生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	○ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ○ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ○ 児童生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりにくい。	○ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ○ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。 ○ 児童生徒数、教職員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりやすい。	○ 学校行事や部活動等において、児童生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。
	○ 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。	○ 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。	

生活面

小規模校		大規模校	
メリット	デメリット	メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ○ 異学年間の縦の交流が生まれやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ○ 集団内の男女比に極端な隔たりが生じやすくなる可能性がある。 ○ 切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ○ 切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校全体での組織的な指導体制が組みやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。

学校運営面

小規模校		大規模校	
メリット	デメリット	メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ○ 全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ○ 学校が一体となって活動しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ○ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導について相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ○ 一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ○ 教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやさしい。 ○ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 ○ 校務分掌を組織的に行いやさしい。 ○ 出張、研修等に参加しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員相互の連絡調整が図りづらい。

(文部科学省「学校規模によるメリット・デメリット(例) 等参照)

※中央教育審議会初等中等教育分科会の資料〔平成20年12月〕

(2) 適正配置

- 小学校の再編では、小学生の発達段階や通学区域等の立地条件・地域性等から、現在の中学校区を単位として検討
- 中学校の再編については、木津・加茂・山城地域を越える再編は立地条件・地域性等から、現在の5中学校区を基本とする
- 公立の小学校及び中学校の配置に関しては、基本的には「通学距離が小学校にあってはおおむね4km以内、中学校にあってはおおむね6km以内であること。」(義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第4条)
- 通学時間について、「おおむね1時間以内を一応の目安とした上で、各市町村において、地域の実情や児童生徒の実態に応じて1時間以上や1時間以内に設定する

ことの適否も含めた判断を行うことが適當である」（文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」）

- 再編により、公共交通機関やスクールバスの利用、またこれに合わせて公共交通機関を利用した通学に関する助成の検討

【参考】現在の通学支援

■木津川市遠距離通学費補助金交付要綱

市立小学校へ4km以上の遠距離通学及び遠距離通学に準ずる通学をする児童の通学費への補助金。

	遠距離通学	遠距離通学に準ずる通学
対象	4km以上	<p>① 居住集落～学校所在地 3kmから 4km かつ通学すべき道路が児童の通学安全対策上危険な状態であると教育長が認めた通学</p> <p>② 学区外就学通学距離 指定した学校所在地～選択した学校所在地が原則として 3kmから 4km</p>
補助金	旅客運賃額の 10/10 以内	旅客運賃額の 1/2 以内

■木津川市児童送迎車両の運行等に関する規程

南加茂台小学校へ当尾地域から通学する児童を対象にスクールバス（無料）を運行。

2 義務教育9年間を通じ児童生徒一人ひとりの能力・適性等を最大限伸ばせる学校の体系

- 今後の児童生徒数を見据えた教育体系づくり
- 一定の学校規模を確保することによる教育環境の整備
- 小中一貫教育の推進
- ICT 等を活用し教育環境や教育の質の充実
- 「学級数は、12学級以上 18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。」（学校教育法施行規則第41条・第79条）
- 小規模校や大規模校のメリット・デメリット
- 多角的な視点から考えた学校の在り方
 - (1) 児童生徒から見た視点
 - (2) 教員から見た視点
 - (3) 学校運営から見た視点
 - (4) 地域から見た視点 等

- 適正規模を下回る小規模校の教育の環境や質を図るために取組例として、文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」や他自治体が取り組んでいる小学校の統合や小中一貫教育等の方策
- 地域の実情への配慮

(小中一貫教育導入で期待される効果)

- ① 9年間を見通した教育課程を編成・実施することにより、発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導および生活指導の充実を図ることができる。
- ② 小学校から中学校へ進学する際の段差（学習内容や指導方法の違い）を緩やかなものにし、円滑な移行を図ることにより、安定した学校生活を送ることができ。その結果、不登校や問題行動を減少させることもできる。
- ③ 幅広い異年齢集団による活動を通じて、豊かな人間性や社会性を育成することができる。
- ④ 小学校の教員と中学校の教員の相互協力関係が構築でき、学力や体力の向上等の高い教育効果を上げることができる。
- ⑤ 地域社会と連携した特色ある学校づくりを推進し、魅力ある学校とすることによって、保護者や地域社会からの信頼を高めて、地域の教育力を向上させることができます。その結果、学校と地域社会の活性化を図ることができます。

(小中一貫教育の方法)

施設一体型 義務教育学校・小中一貫型学校イメージ

分類	再編前	再編後	特徴
義務教育学校			(修業年限) 9年 (校長) 1人 (教職員組織) 小・中の区別がなく 1つの組織
小中一貫型学校			(修業年限) 小学校 6年 中学校 3年 (校長) 小・中それぞれ 1人 (教職員組織) 小・中ごとに別組織

小中一貫教育における校舎の設置状況

区分	校舎の設置状況
施設一体型 小学校と中学校の校舎の全部または一部が一体的に設置されている。	<p>全部一体的に設置（同一敷地）</p> <p>全部一体的に設置 (同一敷地、渡り廊下で接続)</p> <p>全部一体的に設置 (異なる敷地、渡り廊下で接続)</p>
分校型 低学年時は地域の学校へ通学し、高学年には集約されている。	<p>高学年</p> <p>低学年</p>
施設分離型 小学校と中学校の校舎が隣接していない異なる敷地に別々に設置されている。	<p>別々に設置 (隣接していない異なる敷地)</p>

3 学校施設の整備

- 木津川市学校施設等長寿命化計画の基本方針に即し、老朽度や今後の学校の在り方を踏まえ整備計画を策定
 - (1) 施設総量の適正化
将来予想される児童生徒数に応じた施設規模へ減築の検討や学校適正規模・配置の検討
 - (2) 長寿命化の推進
長寿命化によるライフサイクルコストの縮減
財政負担の平準化に向けた優先順位の設定
 - (3) サービスの質の維持・向上
安全性・快適性（耐震性、衛生性、快適環境、バリアフリー化等）
学習効率の向上（時代に即応した教育環境、スポーツ環境整備等）
地域のコミュニティ拠点（地域住民利用、避難所としての利用等）
学校施設の多目的利用や複合利用

4 地域社会との連携

- 地域の防災拠点としての視点（避難所等）
- 地域コミュニティの視点（地域のまちづくり、地域住民の交流の場）

5 学校選択制

- 学校選択制とは、教育委員会が就学を指定している学校に行くか、別の学校に行くかを保護者及び児童生徒が選択するもの
- 2021年度（令和3年度）から、城山台小学校の児童の急増対策の一環として、特定地域選択制を導入
- 学校選択制を導入するには、通学距離・通学時間の確保を踏まえた検討が必要
- 完全な自由選択は、通学安全上の課題、地域連携等大きな課題
- 児童生徒の健全育成のためには、地域ぐるみでの支援も重要であることから十分な検討が必要

学校選択制

制度	内容
自由選択制	市内の全ての学校のうち、希望する学校に就学を認めるもの
ブロック選択制	市内をブロックに分け、そのブロック内の基部する学校に就学を認めるもの
隣接区域選択制	従来の通学区域は残したままで、隣接する区域内の希望する学校に就学を認めるもの

特認校制	従来の通学区域は残したままで、特定の学校について、通学区域に 関係なく、当該市町村内のどこからでも就学を認めるもの
特定地域選択制	従来の通学区域は残したままで、特定の地域に居住する者につい て、学校選択を認めるもの

学校選択制のメリット・デメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者の学校教育への関心が高まる。 ○ 子どもが自分の個性にあった学校で学ぶ ことができるようになる。 ○ 選択を通じて特色ある学校づくりが推進 できるようになる。 ○ 学校の方針を積極的に発信するようにな る。 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通学距離が長くなることに伴う安全確保 の問題。 ○ 学校と地域の関係の希薄化 ○ 入学者の減少による適正規模の維持が困 難になる。 等

6 校区変更

- 校区については、学校教育法施行令第5条の規定により、住民基本台帳に基づいて、小中学校毎に指定
- 特別な事情があると判断される場合には、校区外の学校への就学
- 地域活動の多くが校区と密接に関係していることから、こうした地域活動や地域の中での児童生徒同士のつながりは、健全な育成には欠かせないことから、通学時の安全確保や学校教育活動においても、学校・家庭・地域で連携した取り組みも行われていることから、校区の変更には十分な検討が必要
- 2008年度（平成20年度）木津川台小学校区が木津中学校から木津第二中学校へ校区変更
- 2023年度（令和5年度）城山台地区の一部を木津中学校から木津南中学校へ校区変更予定

III 具体的な学校再編整備の方向性

I 傾向による区分

▼減少傾向にある中学校区

(校区) 泉川中学校区、山城中学校区

(現状) ○ 児童生徒数の減少傾向継続

○ 単学級の学年や複式学級の編制

○ 学校施設は棚倉・恭仁小学校を除く5小中学校で築40年超

○ 地理的要因や地域事情への考慮

▼変動が緩やかな中学校区

(校区) 木津第二中学校区

(現状) ○ 児童生徒数は緩やかに減少

○ 学校施設は相楽台小学校が築29年、その他の3小中学校で築30年超

▼増加傾向の中学校区

(校区) 木津中学校区・木津南中学校区

(現状) ○ 城山台地区の児童生徒の急激な増加、その他の小学校区は緩やかな減少傾向

○ 学校施設は、築60年超えの木津・相楽小学校について現在整備中、梅美台小学校が築25年、その他の4小中学校は築15年以内

○ 児童生徒数の増加に対応した、施設の拡充と急増対策の実施

○ 校区の見直し等を含む学校規模・学校配置の適正化を検討

【考えられる方向性】

○ 地域実態を踏まえた対応

○ 小学校の統廃合

○ 小学校中・高学年は統廃合するが、低学年は分校として存置

○ 小中一貫型学校・義務教育学校の設置

○ 通学区域の変更

○ 学校選択制の導入

○ 現状維持

2 中学校区毎の状況

市内 5 中学校区の現況と児童生徒数・学級数の推計等についてです。

- 市立小・中学校の児童生徒数推計
- 市立小・中学校の学年別児童生徒数・学級数の推計
これまでの人口動向、社会移動、自然増減の推移や傾向などによりコーホート要因法を用い、市立小・中学校への進学率を用いて推計しています。
学級数は、児童生徒数を小学校は 35 人、中学校は 40 人で除して切り上げています。
- 学校の位置
中学校を中心として、同心円状に位置関係を示しています。
- 施設
木津川市学校施設等長寿命化計画を参考にしています。

【参考】児童生徒数の推計等について

本計画で用いている児童生徒数等については、4 ページ「市立小中学校 出生数による児童生徒数・学級数の状況」は、2021 年度の住民基本台帳を基準に算出しています。

それ以外の推計については、2020 年 9 月末の住民基本台帳によるものとし、これまでの人口動向、社会移動、自然増減の推移や傾向などによりコーホート要因法を用いて推計したため、例えば小学 1 年生に相当する人口算出にあたっては、次の算式を用いており、2020 年の実績値とは一致するものではありません。

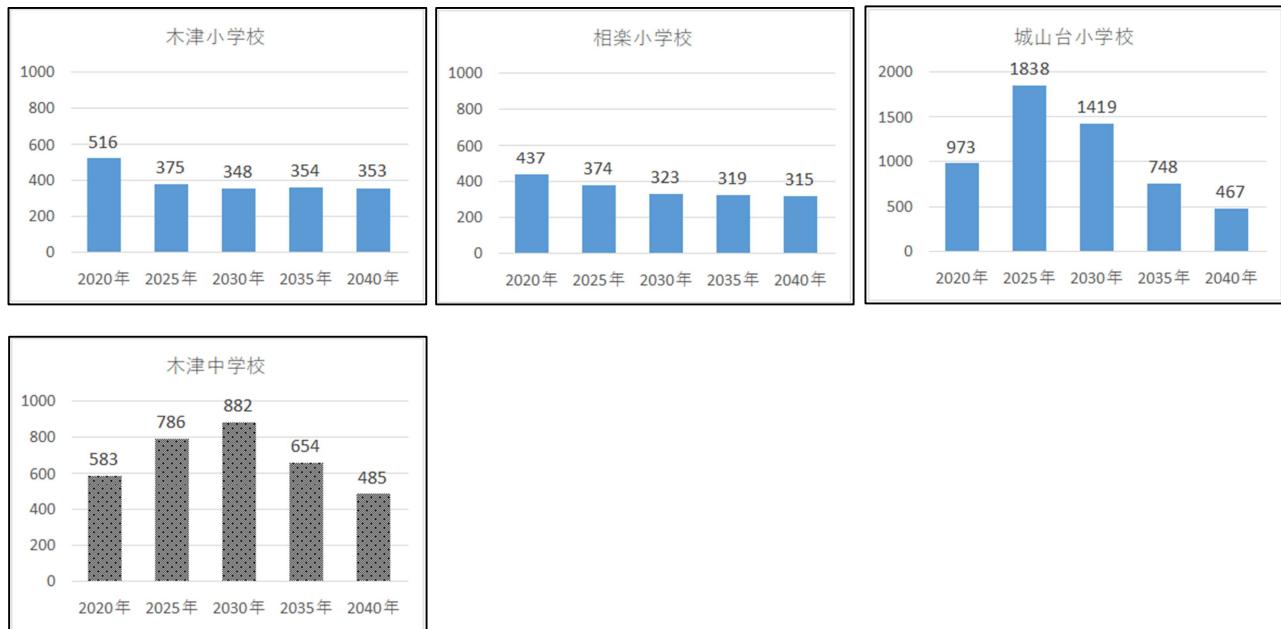
$$(例) 小学 1 年生に相当する人口 = [6 歳 \times 1/2] + [7 歳 \times 1/2]$$

なお、コーホート要因法は、出生・死亡・移動の人口変動を要因別に設定し、その変化率に基づいて将来人口を推計できる一方、今回の推計では 2010 年～2015 年を基準とした変化率を用いるため、「推計の前提に含まれない新たな変化」や「想定していた変化のペースが変わった」等の影響は反映されません。

そのため、新興住宅地の推計結果を例にした場合、現在の小学生が 20 年後、30 歳前後になった時、その小学生が、市内在住なのか市外転出しているかという事については、現在の移動の変化率を用いて推計をするため、変化のペースが変わることが予測され、当推計と異なることが想定されます。

木津中学校区

○市立小・中学校の児童生徒数推計（人）



○市立小・中学校の学年別児童生徒数・学級数の推計

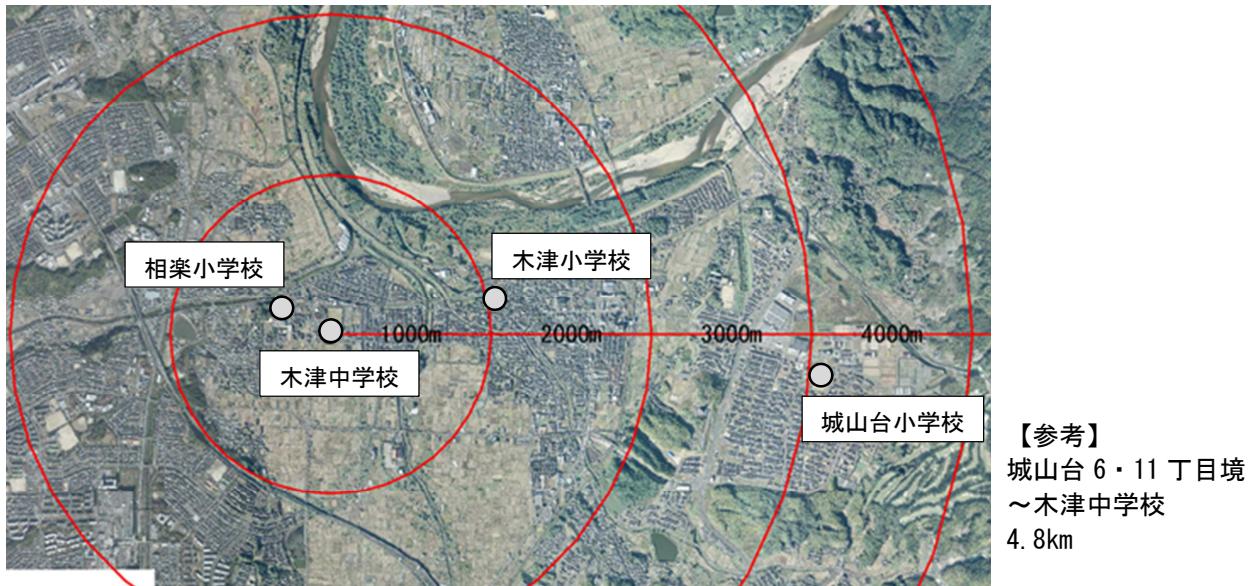
(児童数：人)										
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	児童数	学級数								
1年	69	2	50	2	58	2	59	2	60	2
2年	75	3	60	2	59	2	58	2	60	2
3年	81	3	64	2	61	2	59	2	59	2
4年	97	3	60	2	61	2	59	2	59	2
5年	103	3	68	2	58	2	59	2	58	2
6年	91	3	73	3	51	2	60	2	57	2
計	516	17	375	13	348	12	354	12	353	12

(児童数：人)										
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	児童数	学級数								
1年	70	2	58	2	53	2	53	2	54	2
2年	77	3	56	2	54	2	53	2	53	2
3年	74	3	63	2	55	2	53	2	52	2
4年	78	3	63	2	48	2	53	2	52	2
5年	72	3	61	2	54	2	53	2	52	2
6年	66	2	73	3	59	2	54	2	52	2
計	437	16	374	13	323	12	319	12	315	12

(児童数：人)										
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	児童数	学級数								
1年	237	7	324	10	160	5	92	3	77	3
2年	220	7	336	10	178	6	102	3	74	3
3年	183	6	332	10	194	6	114	4	73	3
4年	139	4	316	10	241	7	129	4	74	3
5年	109	4	276	8	298	9	147	5	80	3
6年	85	3	254	8	348	10	164	5	89	3
計	973	31	1,838	56	1,419	43	748	24	467	18

木津中学校										(生徒数：人)
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	生徒数	学級数								
1年	216	6	277	7	297	8	204	6	155	4
2年	196	5	257	7	301	8	218	6	161	5
3年	171	5	252	7	284	8	232	6	169	5
計	583	16	786	21	882	24	654	18	485	14

○学校の位置



○状況

木津中学校の生徒数は、2025年以降 城山台小学校校区のうち 9~13 丁目以外が木津中学校校区になるため、2030年の約 880 人をピークに、2040 年には約 490 人の見込みとなっています。

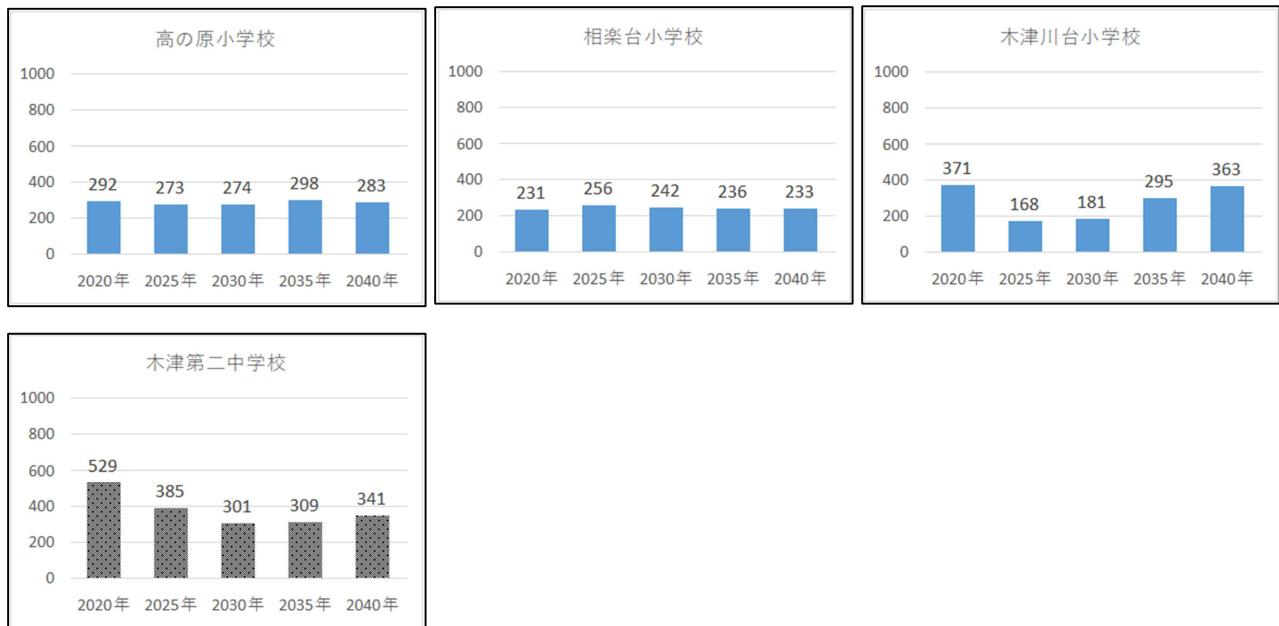
一方、小学校の児童数・学級数は、城山台小学校において、2025年に約 1,840 人となります。が、2040 年には約 470 人 各学年 3 クラスの見込みとなっています。木津小学校は、2030 年以降 約 350 人程度 各学年 2 クラス、相楽小学校は、2030 年以降 約 320 人程度 各学年 2 クラスの見込みとなっています。

○施設

学校名	用途	面積 (m ²)	建築 年度	経過年数			備考
				2020年	2030年	2040年	
木津小学校	校舎	1,503	1956	64	74	84	H21耐震補強
	校舎	96	1956	64	74	84	H21耐震補強
	校舎	1,134	1980	40	50	60	H21耐震補強
	体育館	1,054	1981	39	49	59	
	校舎	2,393	1977	43	53	63	H13耐震補強
相楽小学校	校舎	961	1958	62	72	82	H22耐震補強
	校舎	1,023	1976	44	54	64	
	体育館	956	1981	39	49	59	H23耐震補強
	校舎	384	1985	35	45	55	
	校舎	1,703	1980	40	50	60	H23耐震補強
城山台小学校	校舎	7,412	2014	6	16	26	
	体育館	971	2014	6	16	26	
木津中学校	校舎	8,009	2014	6	16	26	
	体育館	1,987	2014	6	16	26	

木津第二中学校区

○市立小・中学校の児童生徒数推計（人）



○市立小・中学校の学年別児童生徒数・学級数の推計

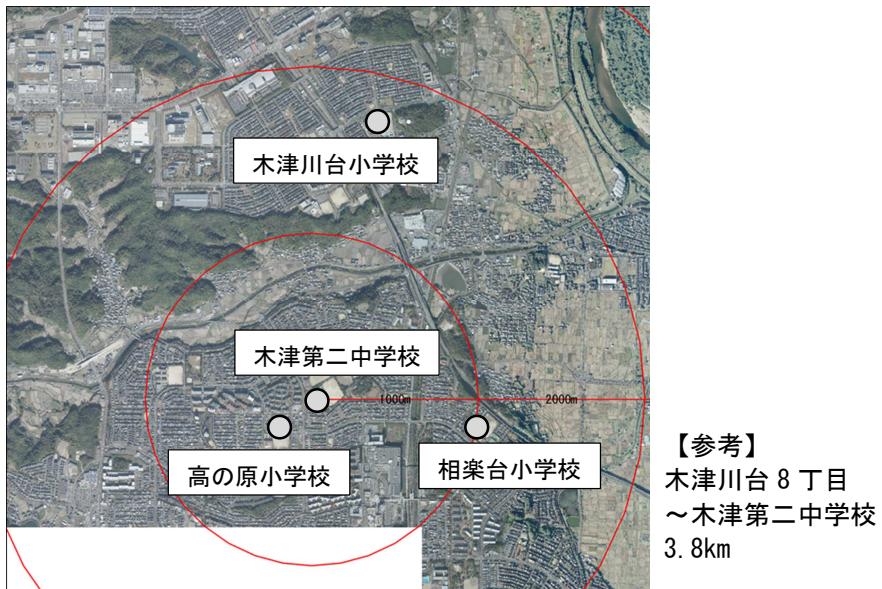
(児童数：人)										
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	児童数	学級数								
1年	43	2	43	2	48	2	50	2	46	2
2年	51	2	42	2	49	2	50	2	47	2
3年	49	2	45	2	50	2	50	2	47	2
4年	44	2	54	2	45	2	50	2	47	2
5年	48	2	44	2	38	2	49	2	48	2
6年	57	2	45	2	44	2	49	2	48	2
計	292	12	273	12	274	12	298	12	283	12

(児童数：人)										
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	児童数	学級数								
1年	38	2	43	2	38	2	39	2	39	2
2年	44	2	41	2	39	2	39	2	39	2
3年	40	2	48	2	40	2	40	2	40	2
4年	37	2	48	2	40	2	40	2	39	2
5年	36	2	36	2	41	2	39	2	38	2
6年	36	2	40	2	44	2	39	2	38	2
計	231	12	256	12	242	12	236	12	233	12

(児童数：人)										
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	児童数	学級数								
1年	39	2	21	1	40	2	58	2	63	2
2年	48	2	20	1	38	2	54	2	63	2
3年	59	2	26	1	36	2	51	2	62	2
4年	66	2	29	1	26	1	47	2	61	2
5年	74	3	31	1	19	1	44	2	58	2
6年	85	3	41	2	22	1	41	2	56	2
計	371	14	168	7	181	9	295	12	363	12

木津第二中学校										(生徒数：人)
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	生徒数	学級数								
1年	165	5	125	4	88	3	108	3	116	3
2年	182	5	130	4	101	3	107	3	114	3
3年	182	5	130	4	112	3	94	3	111	3
計	529	15	385	12	301	9	309	9	341	9

○学校の位置



○状況

木津第二中学校の生徒数の推計では、2020 年以降減少傾向となり、2030 年には約 300 人の見込みとなっています。

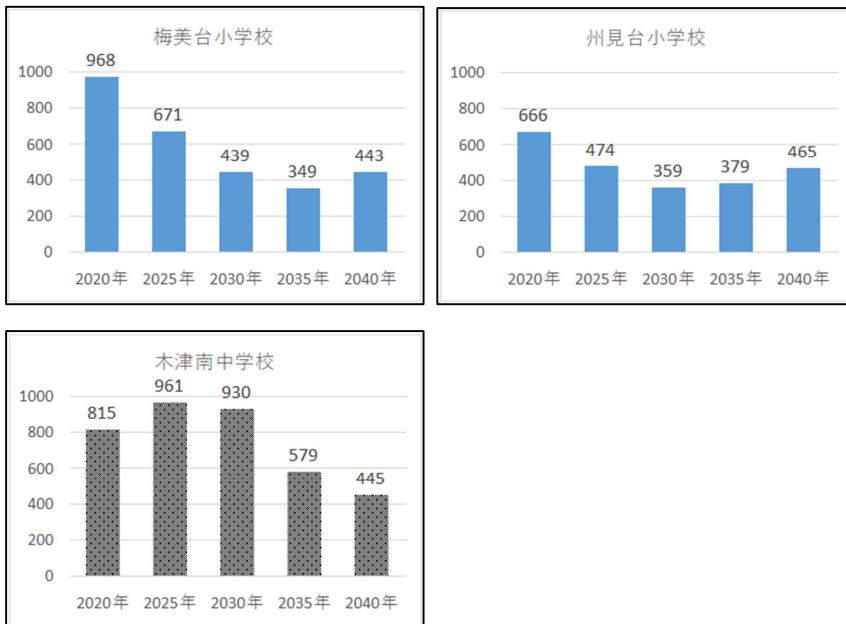
一方、小学校については、高の原・相楽台小学校においては横ばい傾向で 1 学年あたり 2 クラスですが、木津川台小学校は、2020 年以降、減少傾向となり 2025・2030 年には、単学級の学年が出る見込みです。

○施設

学校名	用途	面積 (m ²)	建築 年度	経過年数			備考
				2020年	2030年	2040年	
高の原小学校	校舎	1,792	1986	34	44	54	
	校舎	1,134	1986	34	44	54	
	校舎	494	1986	34	44	54	
	校舎	1,133	1986	34	44	54	
	体育館	1,189	1986	34	44	54	
	校舎	884	1990	30	40	50	
相楽台小学校	校舎	1,000	1993	27	37	47	
	校舎	1,643	1993	27	37	47	
	校舎	1,686	1993	27	37	47	
	体育館	924	1993	27	37	47	
木津川台小学校	校舎	3,435	1991	29	39	49	
	校舎	1,877	1991	29	39	49	
	体育館	926	1991	29	39	49	
	校舎	512	2010	10	20	30	
木津第二中学校	校舎	176	1986	34	44	54	
	校舎	2,465	1986	34	44	54	
	校舎	1,387	1986	34	44	54	
	体育館	1,281	1986	34	44	54	
	校舎	1,755	1993	27	37	47	

木津南中学校区

○市立小・中学校の児童生徒数推計（人）



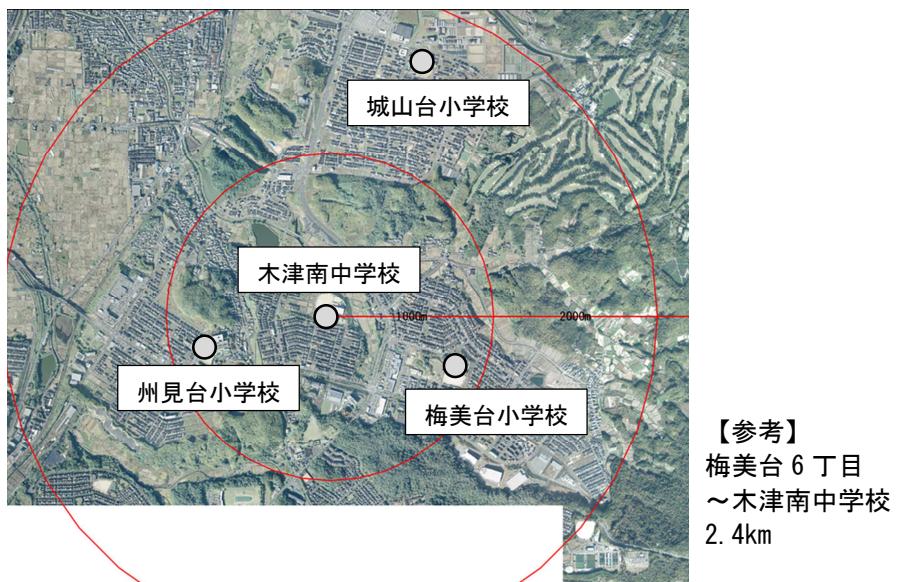
○市立小・中学校の学年別児童生徒数・学級数の推計

(児童数：人)										
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	児童数	学級数								
1年	139	4	103	3	55	2	62	2	87	3
2年	147	5	98	3	58	2	59	2	82	3
3年	149	5	103	3	61	2	58	2	77	3
4年	168	5	109	4	72	3	57	2	71	3
5年	186	6	112	4	88	3	56	2	65	2
6年	179	6	146	5	105	3	57	2	61	2
計	968	31	671	22	439	15	349	12	443	16

(児童数：人)										
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	児童数	学級数								
1年	95	3	71	3	55	2	72	3	86	3
2年	105	3	67	2	55	2	68	2	83	3
3年	101	3	70	2	56	2	63	2	79	3
4年	107	4	80	3	57	2	61	2	75	3
5年	126	4	87	3	64	2	58	2	72	3
6年	132	4	99	3	72	3	57	2	70	2
計	666	21	474	16	359	13	379	13	465	17

(生徒数：人)										
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	生徒数	学級数								
1年	275	7	328	9	299	8	175	5	148	4
2年	280	7	314	8	309	8	185	5	147	4
3年	260	7	319	8	322	9	219	6	150	4
計	815	21	961	25	930	25	579	16	445	12

○学校の位置



○状況

木津南中学校の生徒数の推計では、2025 年以降、城山台 9~13 丁目が木津南中学校区になるため、2025・2030 年は増加傾向となり、2025 年に約 960 人の見込みとなっていますが、その後は減少に転じ 2040 年にはピーク時の約半数の約 450 人になる見込みです。

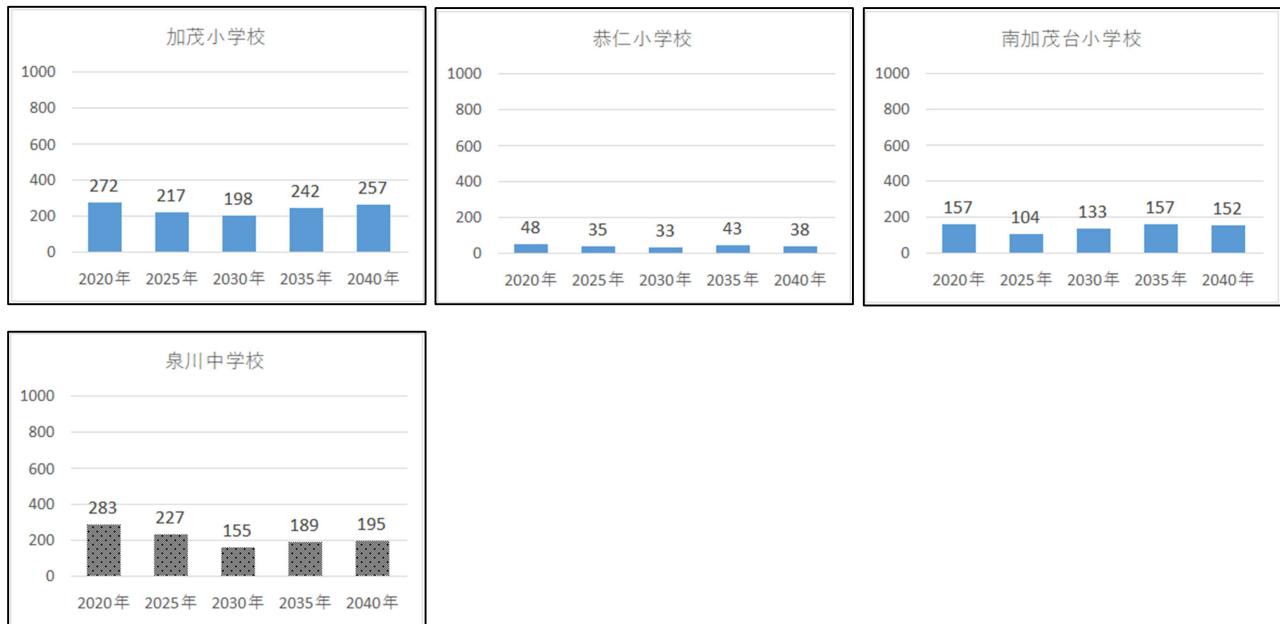
一方、小学校については、梅美台・州見台小学校共に、2020 年をピークに減少傾向に転じ 2035 年には 1 学年 2~3 学級になる見込みです。

○施設

学校名	用途	面積 (m ²)	建築 年度	経過年数			備考
				2020年	2030年	2040年	
梅美台小学校	校舎	1,315	1997	23	33	43	
	校舎	700	1997	23	33	43	
	校舎	2,752	1997	23	33	43	
	校舎	504	1997	23	33	43	
	体育館	1,017	1997	23	33	43	
	校舎	676	2012	8	18	28	
	校舎	1,999	2014	6	16	26	
州見台小学校	体育館	1,279	2007	13	23	33	
	校舎	2,432	2007	13	23	33	
	校舎	4,229	2007	13	23	33	
	校舎	754	2010	10	20	30	
木津南中学校	校舎	4,037	2011	9	19	29	
	校舎	3,689	2011	9	19	29	
	体育館	2,022	2011	9	19	29	

泉川中学校区

○市立小・中学校の児童生徒数推計（人）



○市立小・中学校の学年別児童生徒数・学級数の推計

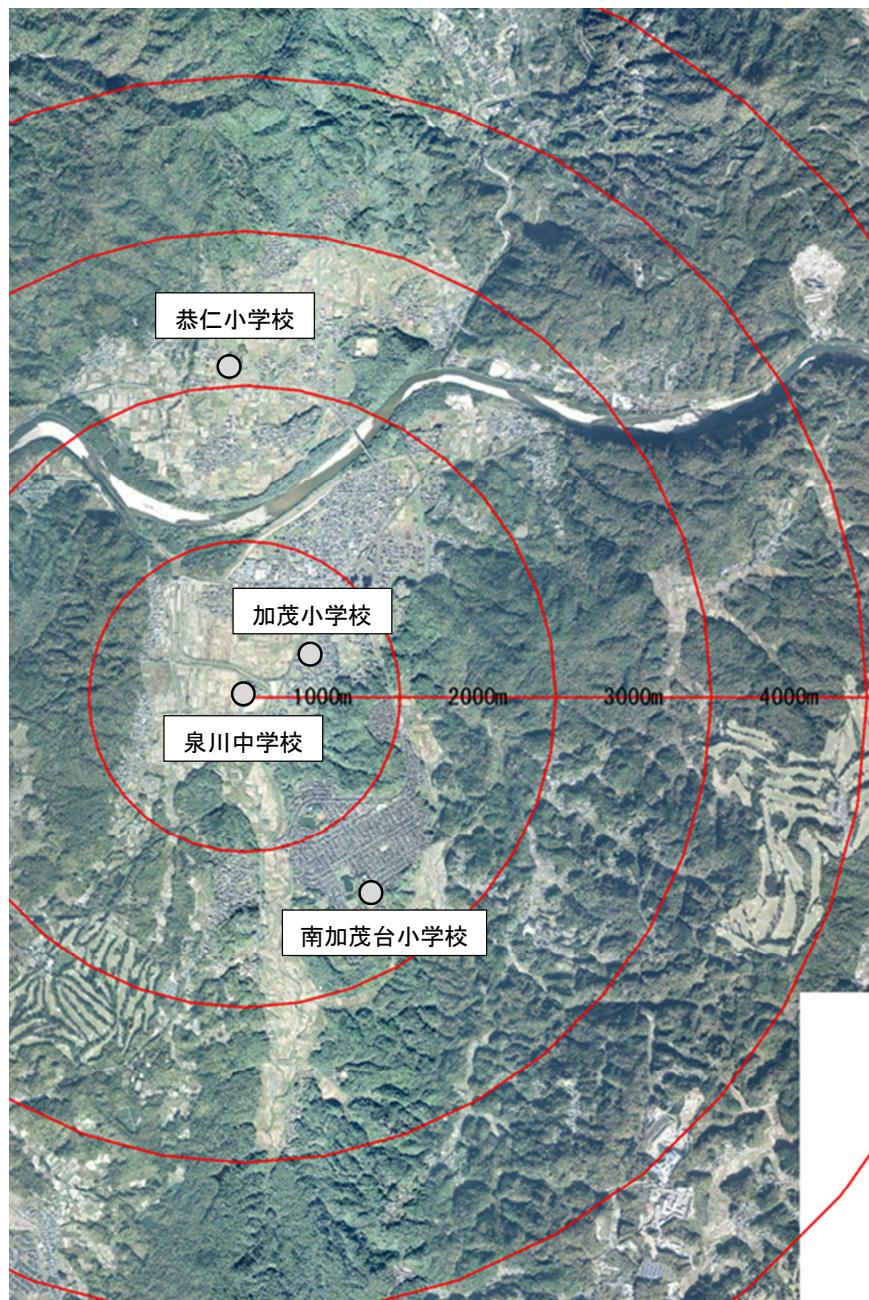
(児童数：人)										
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	児童数	学級数								
1年	40	2	28	1	38	2	42	2	43	2
2年	42	2	36	2	37	2	41	2	44	2
3年	46	2	37	2	37	2	40	2	44	2
4年	47	2	36	2	32	1	40	2	43	2
5年	43	2	38	2	25	1	40	2	42	2
6年	54	2	42	2	29	1	39	2	41	2
計	272	12	217	11	198	9	242	12	257	12

(児童数：人)										
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	児童数	学級数								
1年	7	1	5	1	6	1	8	1	6	1
2年	7	1	4	1	6	1	7	1	6	1
3年	7	1	5	1	6	1	7	1	6	1
4年	8	1	7		5		7	1	6	
5年	10	1	7	1	5	1	7	1	7	1
6年	9	1	7	1	5		7	1	7	1
計	48	6	35	5	33	4	43	6	38	5

(児童数：人)										
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	児童数	学級数								
1年	24	1	16	1	27	1	26	1	25	1
2年	27	1	16	1	28	1	26	1	25	1
3年	26	1	13	1	28	1	26	1	25	1
4年	26	1	13	1	20	1	26	1	26	1
5年	26	1	20	1	14	1	26	1	26	1
6年	28	1	26	1	16	1	27	1	25	1
計	157	6	104	6	133	6	157	6	152	6

泉川中学校										(生徒数：人)
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	生徒数	学級数								
1年	91	3	73	2	53	2	67	2	66	2
2年	92	3	77	2	50	2	68	2	65	2
3年	100	3	77	2	52	2	54	2	64	2
計	283	9	227	6	155	6	189	6	195	6

○学校の位置



○状況

泉川中学校の生徒数の推計では、2020 年以降減少傾向となり、2030 年には約 160 人の見込みとなっています。

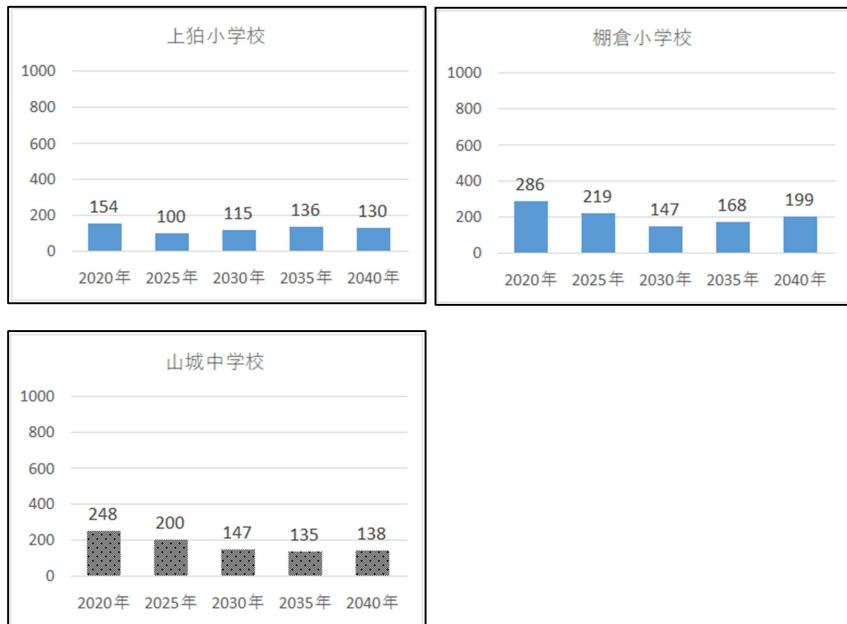
一方、小学校については、加茂・恭仁・南加茂台小学校のいずれにおいて減少傾向で、加茂小学校で 1 学年あたり 1 ~ 2 クラス、恭仁小学校は複式学級による編成が生じ、南加茂台小学校は全学年単学級となる見込みです。

○施設

学校名	用途	面積 (m ²)	建築 年度	経過年数			備考
				2020年	2030年	2040年	
加茂小学校	校舎	2,389	1969	51	61	71	H12耐震補強・大規模改造
	体育館	502	1972	48	58	68	H12耐震補強・大規模改造
	校舎	1,708	1983	37	47	57	
	校舎	203	1983	37	47	57	
	校舎	154	2010	10	20	30	
恭仁小学校	体育館	348	1936	84	94	104	H27耐震補強
	校舎	1,620	1936	84	94	104	H27耐震補強
	校舎	116	1955	65	75	85	H27耐震補強
	校舎	40	2007	13	23	33	
南加茂台小学校	校舎	1,581	1982	38	48	58	
	校舎	1,530	1982	38	48	58	
	校舎	1,328	1982	38	48	58	
	校舎	1,569	1982	38	48	58	
	体育館	1,087	1982	38	48	58	
	校舎	177	1982	38	48	58	
	校舎	735	1986	34	44	54	
泉川中学校	校舎	117	1989	31	41	51	
	校舎	2,199	1982	38	48	58	
	体育館	1,438	1982	38	48	58	
	校舎	421	1984	36	46	56	
	校舎	784	1984	36	46	56	
	武道場	102	1989	31	41	51	
	校舎	673	1990	30	40	50	
	校舎	1,304	1982	38	48	58	
	校舎	216	1988	32	42	52	
	校舎	1,014	1982	38	48	58	

山城中学校区

○市立小・中学校の児童生徒数推計（人）



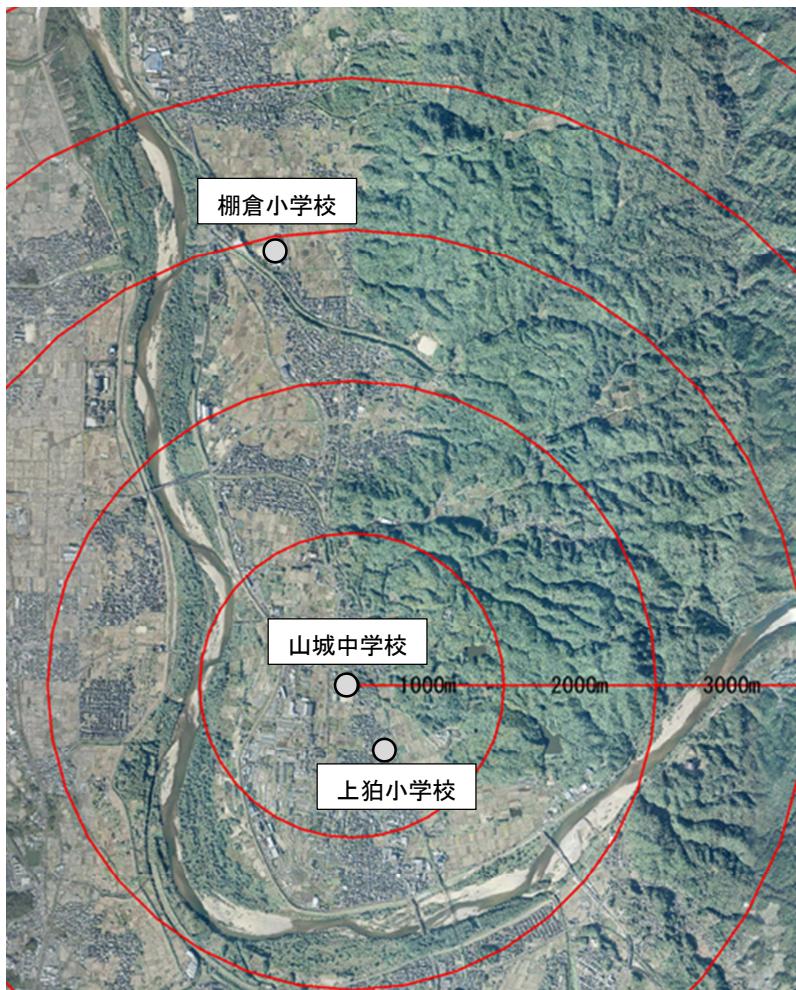
○市立小・中学校の学年別児童生徒数・学級数の推計

上狛小学校 (児童数：人)										
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	児童数	学級数								
1年	18	1	13	1	22	1	23	1	22	1
2年	22	1	15	1	22	1	23	1	22	1
3年	21	1	15	1	22	1	22	1	22	1
4年	26	1	17	1	19	1	22	1	21	1
5年	34	1	21	1	16	1	23	1	21	1
6年	33	1	19	1	14	1	23	1	22	1
計	154	6	100	6	115	6	136	6	130	6

棚倉小学校 (児童数：人)										
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	児童数	学級数								
1年	43	2	22	1	26	1	31	1	36	2
2年	41	2	32	1	26	1	30	1	35	1
3年	46	2	37	2	26	1	28	1	34	1
4年	50	2	37	2	25	1	27	1	33	1
5年	54	2	46	2	21	1	26	1	31	1
6年	52	2	45	2	23	1	26	1	30	1
計	286	12	219	10	147	6	168	6	199	7

山城中学校 (生徒数：人)										
学年	2020年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	生徒数	学級数								
1年	80	2	61	2	45	2	46	2	47	2
2年	85	3	65	2	50	2	46	2	46	2
3年	83	3	74	2	52	2	43	2	45	2
計	248	8	200	6	147	6	135	6	138	6

○学校の位置



○状況

山城中学校区の生徒数の推計では、2020年以降減少傾向となり、2035年には約140人の見込みとなっています。

一方、小学校については、上狛・棚倉小学校のいずれにおいて減少傾向で、上狛小学校では全学年単学級、棚倉小学校でも現在の全学年2クラスから2030年には単学級となる見込みです。

○施設

学校名	用途	面積 (m ²)	建築 年度	経過年数			備考
				2020年	2030年	2040年	
上狛小学校	校舎	2,647	1978	42	52	62	H22耐震補強
	体育館	726	1982	38	48	58	
	校舎	151	2017	3	13	23	
棚倉小学校	校舎	556	1983	37	47	57	
	体育館	726	1985	35	45	55	
	校舎	3,353	2016	4	14	24	
山城中学校	校舎	2,887	1970	50	60	70	H11耐震補強・大規模改造
	校舎	147	1962	58	68	78	
	校舎	198	1975	45	55	65	
	校舎	563	1984	36	46	56	H4大規模改造
	体育館	1,729	2006	14	24	34	